

氏名 榮 勝 美

学位の種類 医 学 博 士

学位授与番号 甲 第 470 号

学位授与の日付 昭和54年3月31日

学位授与の要件 医学研究科病理系病理学専攻
(学位規則第5条第1項該当)

学位論文題目 マウス内在性腫瘍ウイルスとマウス乳癌ウイルスとの相関性について

第一報 自然発生乳癌マウスにアデノウイルス誘発腫瘍を移植した場合の両腫瘍の電顕的検索

第二報 蛍光抗体法による intracisternal A 粒子と intracytoplasmic A 粒子抗原の検索

論文審査委員 教授 矢部 芳郎 教授 妹尾左知丸 教授 小田 琢三

学位論文内容の要旨

B型ウイルス粒子はC3H/He乳癌の主たる原因因子と見做され、細胞質内A型粒子がその前駆体と考えられている。C3H/Bif Bマウスは乳癌因子を保有しないが、これにアデノウイルス12型を接種して誘発された腫瘍には活性化された内在性C型粒子及びintracisternal A粒子が出現する事がわかっている。

第一報では自然発生乳癌担癌C3H/HeマウスにC3H/Bif Bマウス由来アデノウイルス12型誘発腫瘍3系統を移植し、各々の腫瘍について電顕的にウイルス粒子の検索を行い、形態的に相類似する上記4型の粒子について同一宿主内での相関性を追求した。

腫瘍の移植は3系統共すべて可能で、移植に関連する腫瘍特異抗原や自然におこる抗原性の変化による組織適合性抗原の修飾は極めて微弱であると考えられる。一方各々のウイルス粒子増生は互に干渉する事なく共存する事が確認された。従ってB型粒子とC型粒子又は細胞質内A型粒子とintracisternal A粒子ゲノムの発現は腫瘍細胞内で互に独自に規制されているものと考えられた。

第二報では抗intracisternal A粒子血清及び抗細胞質内A粒子血清を使用し、C3H/Bif Bマウスのアデノウイルス12型誘発腫瘍とC3H/Heマウスの乳癌腫瘍組織を各々蛍光抗体間接法により検索した。その結果intracisternal A粒子とintracytoplasmic A粒子は形態的には類似するが共通抗原は殆んど存在しないことが確認された。

論文審査の結果の要旨

本研究は、マウス乳癌中にみられるB粒子，細胞質内A粒子と，アデノウイルス12型誘発マウス腫瘍中にみられるC粒子，小胞体内A粒子との間に，抗原的にも又干渉能においても関連がないことを，腫瘍の移植，及びウイルスの電顕観察と蛍光抗体法により解明したもので，医学博士の学位に値するものと認める。